

資料4

オープンサイエンス推進に関する
フォローアップ検討会（第8回）
平成29年3月27日（月）

オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会 における検討状況と今後の検討課題等

■ これまでの議論状況

【オープンサイエンスの普及および啓蒙のための取り組みについて】

- ・ オープンサイエンスの推進が国益上および、研究を推進するうえで有益になることの根拠の提示、定量化（第1回）
- ・ 組織内（大学）でのオープンアクセスに関する議論の必要性（第1回）
- ・ 研究者に向けた情報提供、説明方法等の検討（第2回）
- ・ コミュニティの特性に応じた共通検討課題等の検討（第5回）
- ・ 研究者への評価、インセンティブの必要性、研究資金配分への反映等（第5、6、7回）

【法的観点からの議論】

- ・ 知的財産権との関連（第1、2、4、7回）
- ・ オープンの原則と例外の関係の具体化（第1回）
- ・ 委託機関と研究機関との契約に関する統一方針の制定（第4回）

【国際的な取り組みについて】

- ・ 国際的なルールの制定の動き（第1回）
- ・ 諸外国の取り組みを参考とし、研究基盤の予算に含めるなどの検討（第3回）
- ・ それぞれの関連団体等による研究データの国際的な活用、国際協調（第6回）

【データ整備に関わる人材について】

- ・ 専門的な人材、研究現場をサポートする人材の育成（第2回）
- ・ データキュレーション等の場面で活躍ができるようなキャリアパスの整備（第2、5回）

【インフラ整備について】

- ・ データベースの運営、共有、識別子付与について（第3回）

【学協会での取り組みについて】

- ・ 学会誌の投稿規定での言及（第3回）

【考えられる諸問題について】

- ・ 国の政策としての継続性（第5回）

■ 今後（来年度以降）、検討すべきテーマ（課題）

- ・ 国際的なルールづくりへの貢献に向けた諸外国の動向収集及び分析
- ・ 科学技術政策とオープンアクセス、オープンデータの位置づけとその推進
- ・ これまでの検討及び国内動向を踏まえた課題への対応
 - ✓ インセンティブ
 - ✓ 人材育成
 - ✓ キャリアパス
- ・ 研究コミュニティの特性に応じた国内共通課題等の抽出

※参考：「国際的動向を踏まえたオープンサイエンス検討会報告書」における今後の検討課題

- (1) 論文、研究データの公開・共有化に係る検討
- (2) 研究データの保存に係る検討
- (3) 保存すべきデータ及び保存期間等
- (4) 研究データの技術的な品質の評価等
- (5) 研究者に対するインセンティブ等
- (6) データ駆動型の研究をサポートするサービスを企画、開発、運用する人材の確保

■ 検討会としての方向性

（国際的動向を踏まえて）

- ・ G7（GSO）・G20等の国際会合、OECD等の国際機関、RDA等における検討状況等、海外動向を引き続きフォローする。
 - 国際ルールへの貢献、国内における議論、体制整備への対応
 - G7を中心とした各国との連携方策等への対応

（国内の取組促進に向けて）

- ・ 第5期科学技術基本計画に基づく「オープンサイエンスの推進」に向けた、関係省庁の取組をフォローアップする。
 - 国際動向を踏まえた国内取組の促進
 - 先行事例、優良事例等の積極的発信 等

(参考：これまでの報告(敬称略))

第1回 (平成27年7月17日)

「京都大学におけるオープンアクセスポリシー策定及びその取り組み」引原隆士(京都大学)

第2回 (平成27年9月11日)

「学術情報のオープン化の推進について」渡邊和良(文部科学省)

「EUにおけるオープンサイエンスの推進」カラピペリス(EU駐日代表部)

第3回 (平成27年11月12日)

「RDA第6回全体会合及びCODATA ジャパンデータサイテーションワークショップの概要」村山泰啓(情報通信研究機構)

「米国オープンアクセス助成機関会合への参加について」林和弘(文部科学省)

「国際研究者識別子ORCIDの動向について」宮入暢子(ORCID)

「オープンサイエンスへの取組」土井美和子(日本学術会議)

第4回 (平成28年1月28日)

「オープンサイエンスに必要な著作権知識」末吉亙(潮見坂綜合法律事務所)

「OECDのオープンサイエンスレポートと日本の現況」林和弘(文部科学省)

第5回 (平成28年2月19日)

「データサイエンス共同利用基盤施設 データサイエンス・オープンサイエンスに向けた情報・システム機構の取組み」北川源四郎(情報・システム研究機構)

「JAMSTECにおける海洋データ管理について」華房康憲(海洋研究開発機構)

第6回 (平成28年3月30日)

「学術情報のオープン化の推進について」渡邊和良(文部科学省)

「一般研究者の作成するデータ及びデジタル・リソースの恒久的オープン化」齊藤昭則(京都大学)

「オープンサイエンスについてのフォローアップ報告」谷藤幹子(物質・材料研究機構)

「RDA (Research Data Alliance) 第7回総会および関連会合参加報告および所感」村山泰啓(情報通信研究機構)

第7回 (平成28年9月9日)

「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」土井美和子(日本学術会議)

第8回 (平成29年3月27日)

「G7オープンサイエンスWG報告」村山泰啓(情報通信研究機構)

「G7科学技術大臣会合フォローアップ「海洋の未来」ワークショップ」華房康憲(海洋研究開発機構)

「JSTにおけるオープンサイエンスへの対応」小賀坂康志(科学技術振興機構)